

薄暑
はくしよ

夏のはじめの感覚的な季節。

いかにも夏らしくなったなと感じる頃を言います。

服装もだんだん軽いものになってきたり、やや汗ばむほどの暑さを感じる季節。

日に焼けて身体の色が濃くなり、

照っている農人たちもいます。

水分補給も大事で、持参している

水分量も重くなっている変化も

薄暑を感じます。



陽射しの強さを感じる日々。亀岡や美山の山間地や、夏場は冷涼な丹後での作付け作業予定が多くなります。広大な畑での土づくりや定植作業、夏に向けて一気に進めていきます。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

農人の努力で生まれ変わった春葱のお届け

3月に苗を定植した京都市内で育ったねぎをお届けします。冬から本格的な作付けが開始される春の始まりの時から、穏やかな気候の中で順調に生育していました。しかし、5月に入り、この地域一帯でべと病が発生。毎年、べと病に対して注意を払っていますが、今回私たち農人からしても予想外の大発生で対応に追われていました。感染を拡大を防ぐための防除と生育促進の葉面追肥を繰り返し、病気に害された葉は、外葉となって工場での選別調整で破棄し、新しい葉が形成されたねぎとなり、今月の収穫時期にはいつも通りのきれいなねぎとしてお届けできることになりました。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

雨や病気のもとに、気を配る農人たち

6月は1年の中で一番悩ましい季節です。生育中のねぎに対して病気が出ないように日々の変化に気を配って管理し、これから作付けを行う場合は毎日天気予報にとらめっこ。梅雨が始まる季節でもあるので、雨の中での収穫はいつも以上に体力を奪われたりします。また、雨天時の収穫は、収穫したねぎだけでなく、畑に残ったねぎの切り株もケアしてあげないと、病気に感染し腐ってしまう可能性も大きいです。



収穫の際に根元をカットして切り株が残った状態、ねぎのデリケートな部分

そのため、収穫中も極力、病原菌の多い泥水がかからないように注意し、収穫後にはねぎの切り株部分に殺菌消毒を行います。収穫でカットしたばかりのねぎの切り株は、デリケートな状態で一番弱っている状態なので、病気に負けないようにケアをしてあげます。また2ヶ月後に、このねぎの切り株から立派なねぎが生育できるよう、心を配り、大事に育てていきます！

とある日の農人日記。

5月末から台風の影響で雨予報が出ました。畝立て作業だけでなく、他の作業も土の状態から優先順位（柔らかい内にはマルチ回収をするなど）を考えていきます。（市内エリア・甲斐）



天気が怪しい中、無事に収穫を終えられて「ほっ。」と一息

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.193

2023年6月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP

4A

春葱



こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。